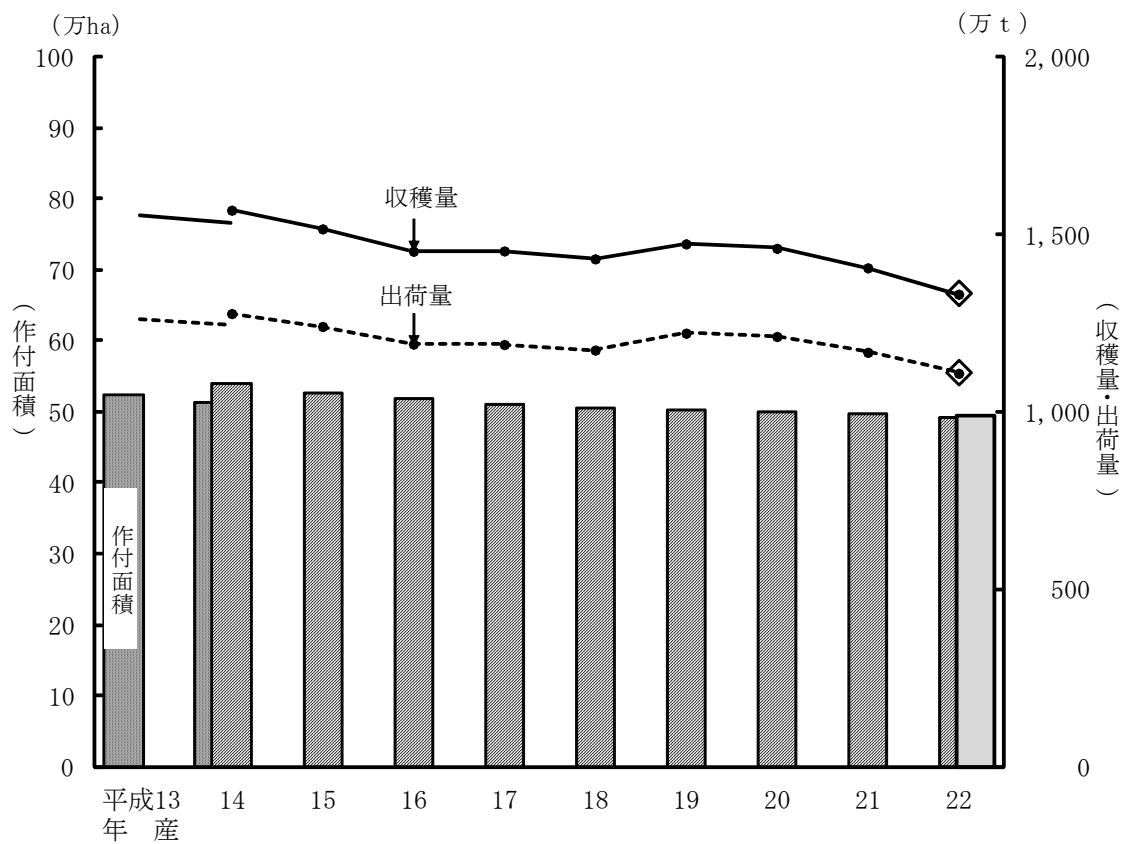




調査結果の概要

1 要 旨

平成22年産の野菜（40品目）の作付面積は49万5,600ha、収穫量は1,336万5,000 t、出荷量は1,112万9,000 tであった。

図1 野菜の作付面積、収穫量及び出荷量



注：平成14年産から葉茎菜類8品目（こまつな、ちんげんさい、ふき、みつば、アスパラガス、しゅんぎく、にら及びにんにく）、果菜類1品目（そらまめ）及び香辛野菜（しょうが）を新たに追加し、39品目となったため、図中、平成14年産については29品目で再集計して平成13年産と同様に表し、平成14年産以降、39品目計の作付面積を「」、収穫量及び出荷量を「」で表した。



また、平成22年産から葉茎菜類1品目（みずな）を新たに追加し、40品目となったため、図中、平成22年産については、39品目で再集計して過去9年間と同様に表し、平成22年産以降、40品目の作付面積を「」、収穫量及び出荷量を「」で表した。

表1 平成22年産野菜の作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり 収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均 収量比
					作付面積	10a当たり 収	収穫量	出荷量	
	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
計	495,600	-	13,365,000	11,129,000	(99)	-	(95)	(95)	-
根 菜 類	176,500	-	5,089,000	4,115,000	99	-	94	94	-
だいこん	35,700	4,190	1,496,000	1,175,000	98	96	94	94	98
かぶ	4,990	2,900	144,600	117,100	95	98	93	93	99
にんじん	19,000	3,140	595,700	526,600	100	92	92	91	93
ごぼう	8,830	1,820	161,100	136,300	95	97	93	93	98
れんこん	4,010	1,510	60,400	50,000	101	96	97	96	102
ばれいしょ (じゃがいも)	82,500	2,780	2,290,000	1,864,000	99	94	93	93	86
さいとも	13,800	1,210	167,600	103,700	98	94	92	92	97
やまのいも	7,640	2,270	173,400	142,400	97	107	104	105	101
葉 茎 菜 類	182,800	-	5,125,000	4,383,000	(100)	-	(95)	(95)	-
はくさい	18,300	4,860	888,700	701,200	98	98	96	98	99
こまつな	6,090	1,630	99,100	84,700	103	99	101	103	101
キャベツ	33,300	4,080	1,360,000	1,193,000	100	98	98	99	99
ちんげんさい	2,380	2,030	48,400	42,500	98	98	96	96	97
ほうれんそう	22,100	1,220	269,000	220,700	99	95	94	94	95
ふき	713	2,020	14,400	11,900	101	96	97	98	91
みつば	1,110	1,480	16,400	15,300	97	99	96	97	100
しゅんぎく	2,250	1,550	34,900	27,900	97	96	93	93	95
みずな	2,230	1,700	38,000	33,300	nc	nc	nc	nc	nc
セルリー	632	5,110	32,300	30,600	94	94	88	88	99
アスパラガス	6,490	484	31,400	27,300	100	101	101	101	106
カリフラワー	1,320	1,710	22,500	18,200	97	96	92	92	95
ブロッコリー	13,400	964	129,200	114,200	100	92	92	92	93
レタス	20,900	2,570	537,900	501,100	101	96	98	98	100
ねぎ	23,100	2,070	477,500	376,200	100	94	94	94	95
にら	2,240	2,850	63,800	57,400	99	97	96	96	98
たまねぎ	24,000	4,340	1,042,000	915,100	100	90	90	90	87
んにく	2,240	879	19,700	12,800	105	95	99	99	92
果 菜 類	107,900	-	2,363,000	1,943,000	99	-	96	97	-
きゅうり	12,100	4,860	587,800	495,400	98	97	95	95	98
かぼち	18,000	1,230	220,500	171,900	99	104	103	105	92
なす	10,300	3,210	330,100	247,200	99	96	95	94	95
トマト	12,300	5,620	690,900	613,500	99	97	96	97	97
ピーマン	3,430	4,000	137,300	118,100	101	95	96	97	96
スイートコーン	25,300	928	234,700	185,700	99	100	99	101	96
さやいんげん	6,830	657	44,900	29,200	96	92	89	90	93
さやえんどう	4,130	634	26,200	16,900	98	96	94	95	101
そらまめ	2,290	856	19,600	13,900	98	102	100	100	102
えだまめ	13,200	535	70,600	50,800	99	98	97	100	95
香 辛 野 菜									
しょうが	1,980	2,720	53,800	41,500	100	101	101	104	120
果 実 的 野 菜	26,400	-	734,800	646,200	97	-	95	95	-
いちご	6,150	2,890	177,500	161,800	97	100	96	96	101
メロン	8,560	2,200	188,100	169,900	97	98	94	94	97
すいか	11,700	3,160	369,200	314,500	97	98	95	94	97

注：対前年産比の（ ）内の数値は、平成21年産の調査対象品目と同じ39品目の計により対比したものである。

2 指定野菜の品目別の概要

(1) だいこん

ア 作付面積

作付面積は3万5,700haで、前年産に比べて700ha（2%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,190kgで、前年産に比べて4%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は149万6,000tで、前年産に比べて9万7,000t（6%）減少した。

出荷量は117万5,000tで、前年産に比べて7万5,000t（6%）減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春だいこんの作付面積は4,930haで、前年産に比べて70ha（1%）減少した。

10a当たり収量は4,700kgで、前年産に比べて3%下回った。これは、生育期の天候不順の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は23万1,800tで、前年産に比べて1万1,500t（5%）減少し、出荷量は20万4,600tで、前年産に比べて1万500t（5%）減少した。

(イ) 夏だいこんの作付面積は6,880haで、前年産に比べて290ha（4%）減少した。

10a当たり収量は3,390kgで、前年産に比べて5%下回った。これは、7月下旬以降の高温の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は23万3,500tで、前年産に比べて2万3,000t（9%）減少し、出荷量は20万9,600tで、前年産に比べて1万8,900t（8%）減少した。

(ウ) 秋冬だいこんの作付面積は2万3,900haで、前年産に比べて300ha（1%）減少した。

10a当たり収量は4,310kgで、前年産に比べて5%下回った。これは、生育期の高温、少雨の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は103万1,000tで、前年産に比べて6万2,000t（6%）減少し、出荷量は76万400tで、前年産に比べて4万6,300t（6%）減少した。

図2 だいこんの作付面積及び収穫量の推移

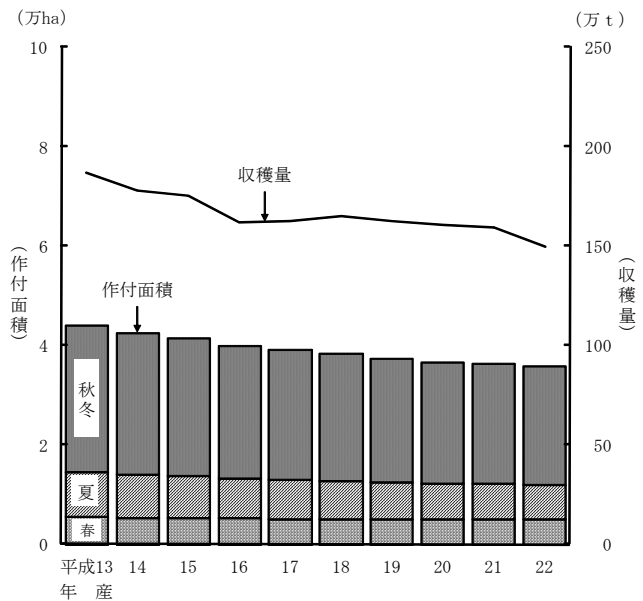


表2 平成22年産だいこんの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均 収量比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
だいこん	35,700	4,190	1,496,000	1,175,000	98	96	94	94	98
春	4,930	4,700	231,800	204,600	99	97	95	95	97
夏	6,880	3,390	233,500	209,600	96	95	91	92	95
秋冬	23,900	4,310	1,031,000	760,400	99	95	94	94	98

(2) にんじん

ア 作付面積

作付面積は1万9,000haで、前年産並みとなった。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は3,140kgで、前年産に比べて8%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は59万5,700tで、前年産に比べて5万4,400t(8%)減少した。

出荷量は52万6,600tで、前年産に比べて5万700t(9%)減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春夏にんじんの作付面積は4,220haで、前年産に比べて70ha(2%)減少した。

10a 当たり収量は3,560kgで、前年産に比べて6%下回った。これは、2月から3月にかけての日照不足の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は15万300tで、前年産に比べて1万2,200t(8%)減少し、出荷量は13万5,300tで、前年産に比べて1万1,900t(8%)減少した。

(イ) 秋にんじんの作付面積は6,550haで、前年産に比べて170ha(3%)増加した。これは、他野菜からの転換等があったためである。

10a 当たり収量は2,820kgで、前年産に比べて10%下回った。これは、7月下旬以降の高温の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は18万4,400tで、前年産に比べて1万4,400t(7%)減少し、出荷量は16万6,200tで、前年産に比べて1万4,600t(8%)減少した。

(ウ) 冬にんじんの作付面積は8,270haで、前年産並みとなった。

10a 当たり収量は3,160kgで、前年産に比べて9%下回った。これは、生育期の高温、少雨の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は26万1,100tで、前年産に比べて2万7,800t(10%)減少し、出荷量は22万5,100tで、前年産に比べて2万4,200t(10%)減少した。

図3 にんじんの作付面積及び収穫量の推移

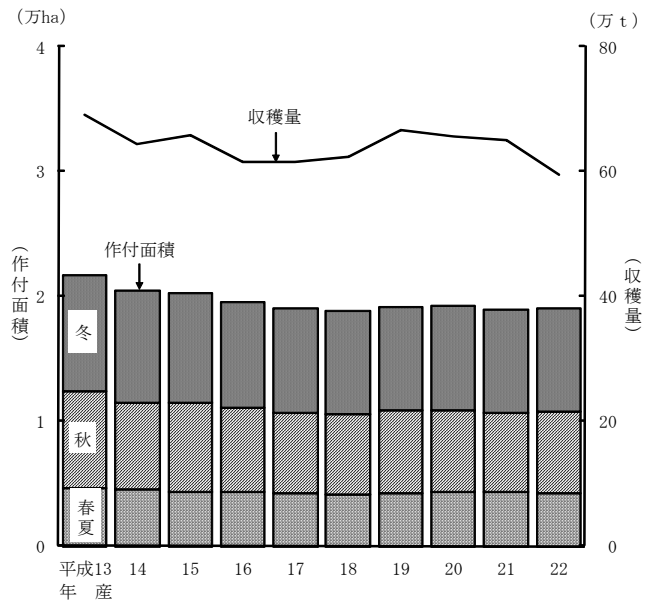


表3 平成22年産にんじんの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	対 前 年 産 比				(参考) 対平均 収量比
					作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
にんじん	19,000	3,140	595,700	526,600	100	92	92	91	93
春夏	4,220	3,560	150,300	135,300	98	94	92	92	98
秋	6,550	2,820	184,400	166,200	103	90	93	92	89
冬	8,270	3,160	261,100	225,100	100	91	90	90	95

(3) ばれいしょ(じゃがいも)

ア 作付面積

作付面積は8万2,500haで、前年産に比べて600ha(1%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,780kgで、前年産に比べて6%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は229万tで、前年産に比べて16万9,000t(7%)減少した。

出荷量は186万4,000tで、前年産に比べて13万7,000t(7%)減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春植えばれいしょの作付面積は7万9,600haで、前年産に比べて700ha(1%)減少した。

10a当たり収量は2,810kgで、前年産に比べて6%下回った。これは、7月以降の高温、多雨の影響により着いも数が少なくなったことに加えて、いもの肥大が抑制され小玉傾向となったためである。

この結果、収穫量は223万7,000tで、前年産に比べて17万5,000t(7%)減少し、出荷量は182万4,000tで、前年産に比べて14万3,000t(7%)減少した。

(イ) 秋植えばれいしょの作付面積は2,910haで、前年産に比べて90ha(3%)増加した。

10a当たり収量は1,800kgで、前年産に比べて8%上回った。これは、主産地である長崎県及び鹿児島県において生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は5万2,500tで、前年産に比べて5,800t(12%)増加し、出荷量は3万9,300tで、前年産に比べて5,600t(17%)増加した。

図4 ばれいしょ(じゃがいも)の作付面積及び収穫量の推移

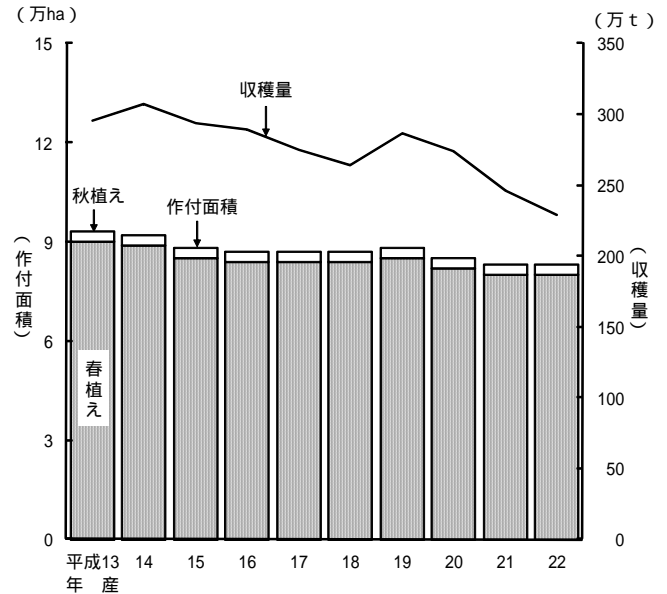


表4 平成22年産ばれいしょ(じゃがいも)の作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考)対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
ばれいしょ(じゃがいも)	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
	82,500	2,780	2,290,000	1,864,000	99	94	93	93	86
春植え	79,600	2,810	2,237,000	1,824,000	99	94	93	93	85
秋植え	2,910	1,800	52,500	39,300	103	108	112	117	117

(4) さといも

ア 作付面積

作付面積は1万3,800haで、前年産に比べて300ha(2%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,210kgで、前年産に比べて6%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は16万7,600tで、前年産に比べて1万4,800t(8%)減少した。

出荷量は10万3,700tで、前年産に比べて8,700t(8%)減少した。

エ 季節区別の概況

秋冬さといもの作付面積は1万3,800haで、前年産に比べて200ha(1%)減少した。

10a当たり収量は1,210kgで、前年産に比べて7%下回った。これは、生育期の高温、少雨の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は16万7,100tで、前年産に比べて1万4,900t(8%)減少し、出荷量は10万3,400tで、前年産に比べて8,800t(8%)減少した。

図5 さといもの作付面積及び収穫量の推移

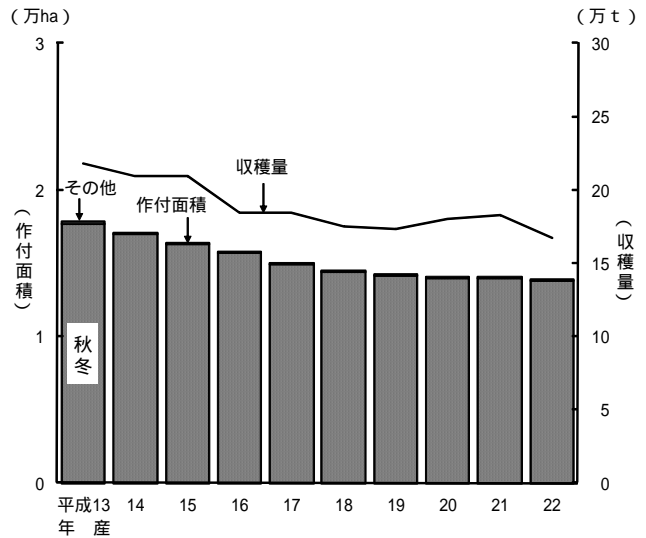


表5 平成22年産さといもの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a当たり収	収 穫 量	出 荷 量	対 前 年 産 比				(参考) 対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
さといも	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
さといも	13,800	1,210	167,600	103,700	98	94	92	92	97
うち秋冬	13,800	1,210	167,100	103,400	99	93	92	92	97

(5) はくさい

ア 作付面積

作付面積は1万8,300haで、前年産に比べて300ha(2%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,860kgで、前年産に比べて2%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は88万8,700tで、前年産に比べて3万5,400t(4%)減少した。

出荷量は70万1,200tで、前年産に比べて1万7,500t(2%)減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春ははくさいの作付面積は1,940haで、前年産に比べて60ha(3%)増加した。これは、他野菜からの転換等があったためである。

10a当たり収量は6,010kgで、前年産並みとなった。

この結果、収穫量は11万6,500tで、前年産に比べて3,200t(3%)増加し、出荷量は10万5,600tで、前年産に比べて3,400t(3%)増加した。

(イ) 夏ははくさいの作付面積は2,710haで、前年産に比べて90ha(3%)減少した。

10a当たり収量は6,150kgで、前年産に比べて3%下回った。

この結果、収穫量は16万6,600tで、前年産に比べて1万700t(6%)減少し、出荷量は14万7,400tで、前年産に比べて5,000t(3%)減少した。

(ウ) 秋冬ははくさいの作付面積は1万3,700haで、前年産に比べて200ha(1%)減少した。

10a当たり収量は4,420kgで、前年産に比べて3%下回った。

この結果、収穫量は60万5,600tで、前年産に比べて2万8,000t(4%)減少し、出荷量は44万8,200tで、前年産に比べて1万5,800t(3%)減少した。

図6 はくさいの作付面積及び収穫量の推移

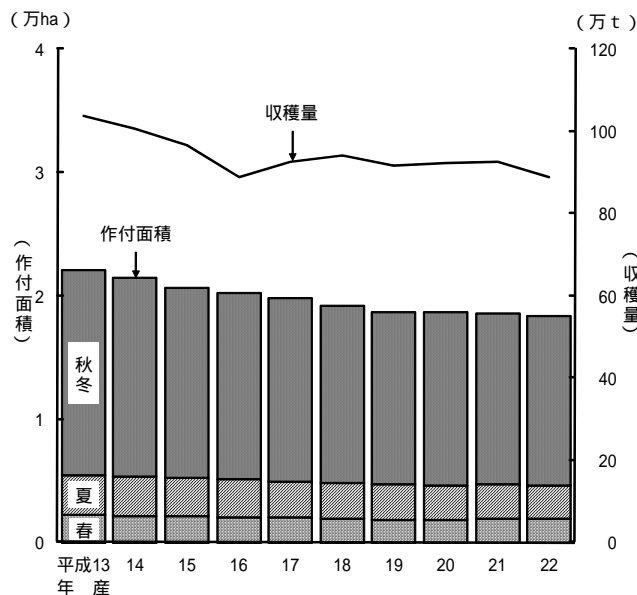


表6 平成22年産はくさいの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
はくさい	18,300	4,860	888,700	701,200	98	98	96	98	99
春	1,940	6,010	116,500	105,600	103	100	103	103	103
夏	2,710	6,150	166,600	147,400	97	97	94	97	101
秋冬	13,700	4,420	605,600	448,200	99	97	96	97	99

(6) キャベツ

ア 作付面積

作付面積は3万3,300haで、前年産並みとなった。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,080kgで、前年産に比べて2%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は136万tで、前年産に比べて2万5,000t(2%)減少した。

出荷量は119万3,000tで、前年産に比べて1万8,000t(1%)減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春キャベツの作付面積は8,840haで、前年産並みとなった。

10a当たり収量は4,050kgで、前年産に比べて1%下回った。

この結果、収穫量は35万8,400tで、前年産に比べて6,100t(2%)減少し、出荷量は31万3,500tで、前年産に比べて4,400t(1%)減少した。

(イ) 夏秋キャベツの作付面積は1万100haで、前年産に比べて100ha(1%)減少した。

10a当たり収量は4,370kgで、前年産に比べて2%下回った。

この結果、収穫量は44万900tで、前年産に比べて1万4,900t(3%)減少し、出荷量は38万8,200tで、前年産に比べて1万1,100t(3%)減少した。

(ウ) 冬キャベツの作付面積は1万4,400haで、前年産に比べて200ha(1%)増加した。

10a当たり収量は3,890kgで、前年産に比べて2%下回った。

この結果、収穫量は56万100tで、前年産に比べて4,500t(1%)減少し、出荷量は49万800tで、前年産に比べて2,900t(1%)減少した。

図7 キャベツの作付面積及び収穫量の推移

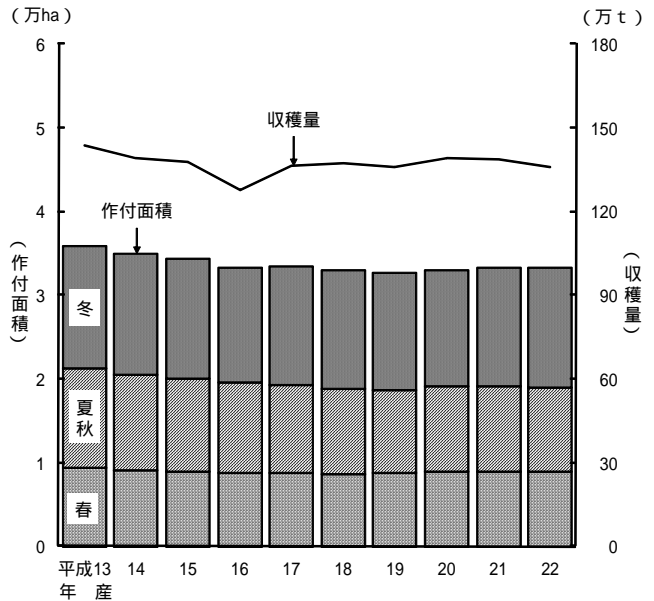


表7 平成22年産キャベツの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
キャベツ	33,300	4,080	1,360,000	1,193,000	100	98	98	99	99
春	8,840	4,050	358,400	313,500	100	99	98	99	100
夏秋	10,100	4,370	440,900	388,200	99	98	97	97	102
冬	14,400	3,890	560,100	490,800	101	98	99	99	98

(7) ほうれんそう

ア 作付面積

作付面積は2万2,100haで、前年産に比べて300ha(1%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,220kgで、前年産に比べて5%下回った。これは、生育期の高温、少雨の影響等により生育が抑制されたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は26万9,000tで、前年産に比べて1万7,300t(6%)減少した。

出荷量は22万700tで、前年産に比べて1万3,500t(6%)減少した。

図8 ほうれんそうの作付面積及び収穫量の推移

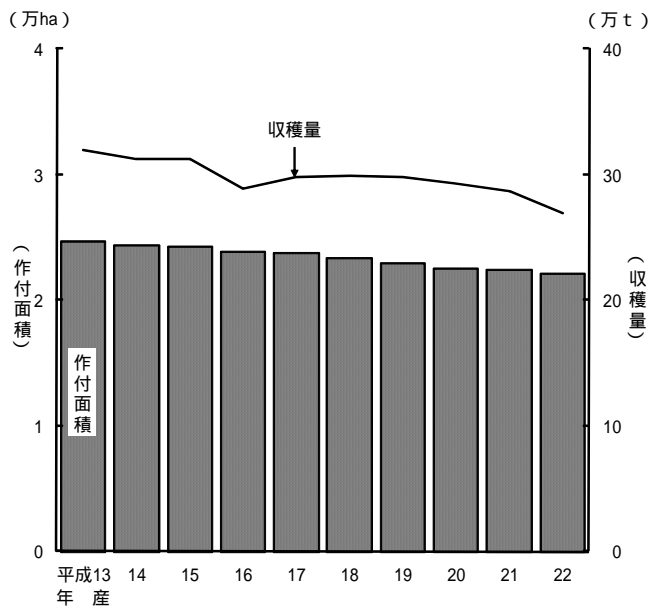


表8 平成22年産ほうれんそうの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a当たり収	収 穫 量	出 荷 量	対 前 年 産 比				(参考) 対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
ほうれんそう	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
	22,100	1,220	269,000	220,700	99	95	94	94	95

(8) レタス

ア 作付面積

作付面積は2万900haで、前年産に比べて300ha(1%)増加した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,570kgで、前年産に比べて4%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は53万7,900tで、前年産に比べて1万1,900t(2%)減少した。

出荷量は50万1,100tで、前年産に比べて9,100t(2%)減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春レタスの作付面積は4,270haで、前年産に比べて50ha(1%)増加した。

10a当たり収量は2,600kgで、前年産に比べて7%下回った。これは、2月から3月にかけての日照不足の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は11万1,200tで、前年産に比べて7,000t(6%)減少し、出荷量は10万3,300tで、前年産に比べて6,500t(6%)減少した。

(イ) 夏秋レタスの作付面積は8,860haで、前年産に比べて260ha(3%)増加した。これは、他野菜からの転換等があったためである。

10a当たり収量は2,820kgで、前年産に比べて3%下回った。これは、生育期の高温等の影響により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は25万100t、出荷量は23万5,600tで、ともに前年産並みとなった。

(ウ) 冬レタスの作付面積は7,750haで、前年産に比べて50ha(1%)減少した。

10a当たり収量は2,280kgで、前年産に比べて2%下回った。

この結果、収穫量は17万6,500tで、前年産に比べて4,200t(2%)減少し、出荷量は16万2,200tで、前年産に比べて3,600t(2%)減少した。

図9 レタスの作付面積及び収穫量の推移

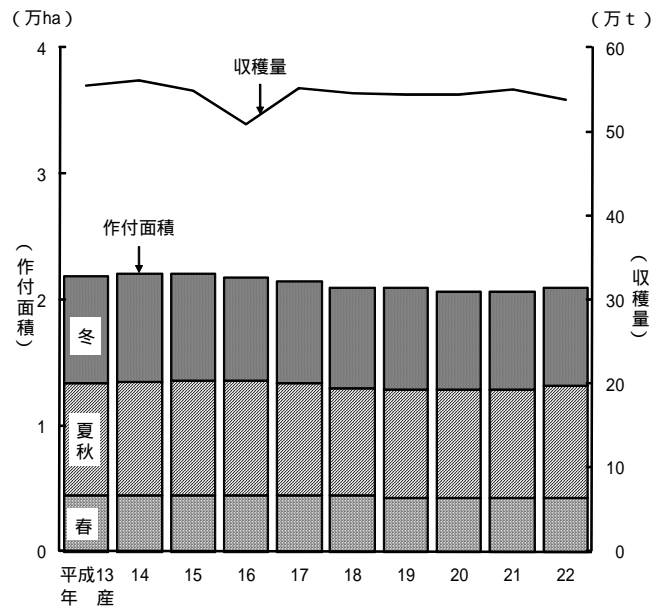


表9 平成22年産レタスの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
レタス	20,900	2,570	537,900	501,100	101	96	98	98	100
春	4,270	2,600	111,200	103,300	101	93	94	94	95
夏秋	8,860	2,820	250,100	235,600	103	97	100	100	103
冬	7,750	2,280	176,500	162,200	99	98	98	98	98

(9) ねぎ

ア 作付面積

作付面積は2万3,100haで、前年産並みとなった。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,070kgで、前年産に比べて6%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は47万7,500tで、前年産に比べて3万900t(6%)減少した。

出荷量は37万6,200tで、前年産に比べて2万3,800t(6%)減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春ねぎの作付面積は3,390haで、前年産に比べて20ha(1%)減少した。

10a当たり収量は2,430kgで、前年産に比べて4%下回った。これは、2月から3月にかけての日照不足の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は8万2,300tで、前年産に比べて4,300t(5%)減少し、出荷量は7万1,100tで、前年産に比べて4,100t(5%)減少した。

(イ) 夏ねぎの作付面積は5,120haで、前年産に比べて40ha(1%)減少した。

10a当たり収量は1,780kgで、前年産に比べて7%下回った。これは、7月下旬以降の高温の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は9万1,000tで、前年産に比べて8,200t(8%)減少し、出荷量は7万8,000tで、前年産に比べて7,000t(8%)減少した。

(ウ) 秋冬ねぎの作付面積は1万4,600haで、前年産並みとなった。

10a当たり収量は2,080kgで、前年産に比べて6%下回った。これは、生育期の高温、少雨の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は30万4,200tで、前年産に比べて1万8,400t(6%)減少し、出荷量は22万7,100tで、前年産に比べて1万2,700t(5%)減少した。

図10 ねぎの作付面積及び収穫量の推移

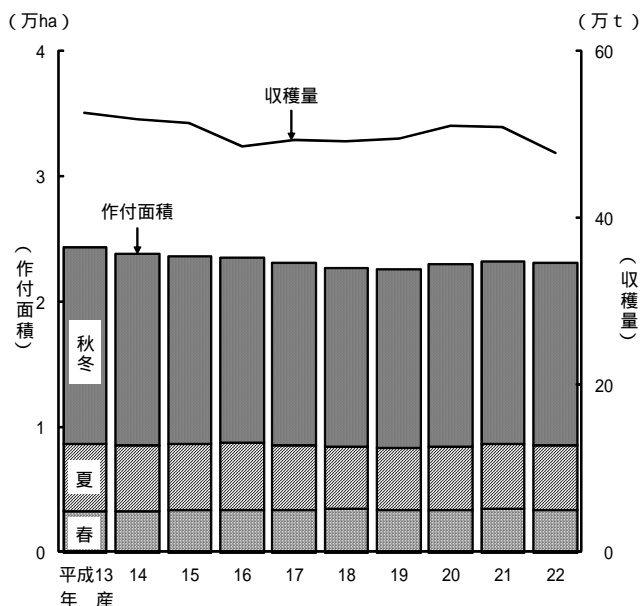


表10 平成22年産ねぎの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
ねぎ	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
春	23,100	2,070	477,500	376,200	100	94	94	94	95
夏	3,390	2,430	82,300	71,100	99	96	95	95	95
秋冬	5,120	1,780	91,000	78,000	99	93	92	92	92
	14,600	2,080	304,200	227,100	100	94	94	95	96

(10) たまねぎ

ア 作付面積

作付面積は2万4,000haで、前年産並みとなった。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,340kgで、前年産に比べて10%下回った。これは、主産地の北海道において7月下旬以降の高温の影響等により生育が抑制されたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は104万2,000tで、前年産に比べて11万9,000t(10%)減少した。

出荷量は91万5,100tで、前年産に比べて10万6,900t(10%)減少した。

図11 たまねぎの作付面積及び収穫量の推移

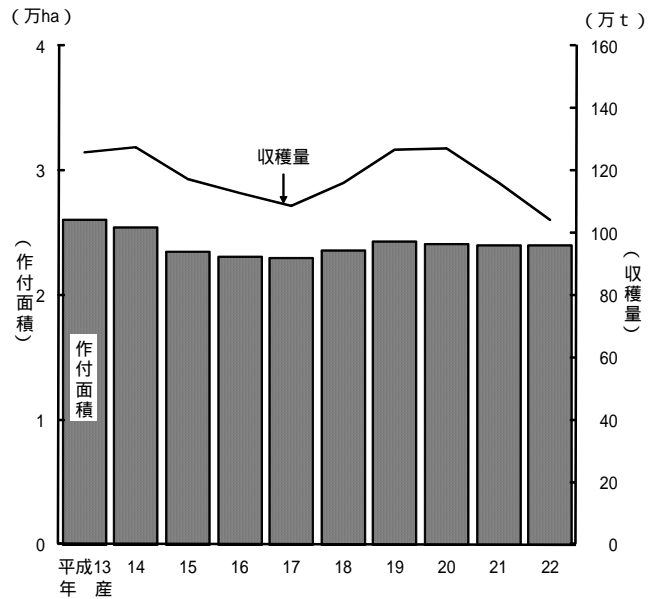


表11 平成22年産たまねぎの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
たまねぎ	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
	24,000	4,340	1,042,000	915,100	100	90	90	90	87

(11) きゅうり

ア 作付面積

作付面積は1万2,100haで、前年産に比べて300ha(2%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,860kgで、前年産に比べて3%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は58万7,800tで、前年産に比べて3万2,400t(5%)減少した。

出荷量は49万5,400tで、前年産に比べて2万8,700t(5%)減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 冬春きゅうりの作付面積は3,110haで、前年産に比べて80ha(3%)減少した。

10a当たり収量は9,770kgで、前年産に比べて3%下回った。これは、生育期の天候不順の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は30万3,900tで、前年産に比べて1万8,300t(6%)減少し、出荷量は28万2,300tで、前年産に比べて1万8,200t(6%)減少した。

(イ) 夏秋きゅうりの作付面積は9,000haで、前年産に比べて170ha(2%)減少した。

10a当たり収量は3,150kgで、前年産に比べて3%下回った。これは、生育期の高温等の影響により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は28万3,800tで、前年産に比べて1万4,200t(5%)減少し、出荷量は21万3,000tで、前年産に比べて1万500t(5%)減少した。

図12 きゅうりの作付面積及び収穫量の推移

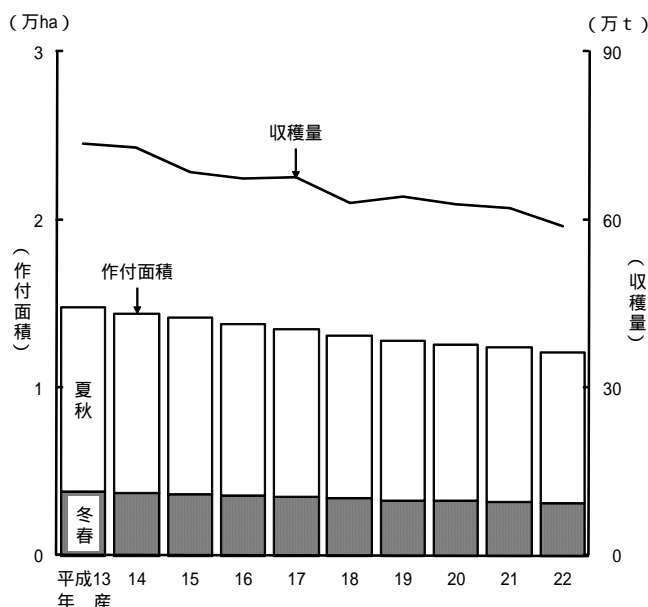


表12 平成22年産きゅうりの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
きゅうり	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
冬春	3,110	9,770	303,900	282,300	97	97	94	94	98
夏秋	9,000	3,150	283,800	213,000	98	97	95	95	98

(12) なす

ア 作付面積

作付面積は1万300haで、前年産に比べて100ha(1%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は3,210kgで、前年産に比べて4%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は33万100tで、前年産に比べて1万9,000t(5%)減少した。

出荷量は24万7,200tで、前年産に比べて1万6,000t(6%)減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 冬春なすの作付面積は1,210haで、前年産に比べて40ha(3%)減少した。

10a当たり収量は9,520kgで、前年産に比べて9%下回った。これは、2月から3月にかけての日照不足の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は11万5,200tで、前年産に比べて1万6,200t(12%)減少し、出荷量は10万8,400tで、前年産に比べて1万5,600t(13%)減少した。

(イ) 夏秋なすの作付面積は9,050haで、前年産に比べて120ha(1%)減少した。

10a当たり収量は2,370kgで、前年産並みとなった。

この結果、収穫量は21万4,800tで、前年産に比べて3,000t(1%)減少し、出荷量は13万8,800tで、前年産並みとなった。

図13 なすの作付面積及び収穫量の推移

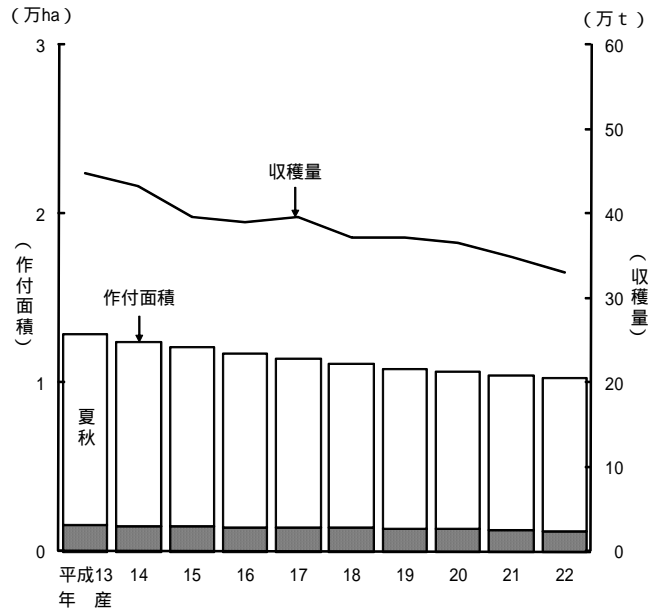


表13 平成22年産なすの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
なす	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
冬春	1,210	9,520	115,200	108,400	97	91	88	87	92
夏秋	9,050	2,370	214,800	138,800	99	100	99	100	98

(13) トマト

ア 作付面積

作付面積は1万2,300haで、前年産に比べて100ha(1%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,620kgで、前年産に比べて3%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は69万900tで、前年産に比べて2万6,700t(4%)減少した。

出荷量は61万3,500tで、前年産に比べて2万1,100t(3%)減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 冬春トマトの作付面積は3,970haで、前年産に比べて30ha(1%)減少した。

10a当たり収量は9,270kgで、前年産並みとなった。

この結果、収穫量は36万8,100tで、前年産に比べて4,100t(1%)減少し、出荷量は34万6,300tで、前年産に比べて3,600t(1%)減少した。

(イ) 夏秋トマトの作付面積は8,340haで、前年産に比べて90ha(1%)減少した。

10a当たり収量は3,870kgで、前年産に比べて6%下回った。これは、7月下旬以降の高温の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は32万2,700tで、前年産に比べて2万2,700t(7%)減少し、出荷量は26万7,000tで、前年産に比べて1万7,800t(6%)減少した。

図14 トマトの作付面積及び収穫量の推移

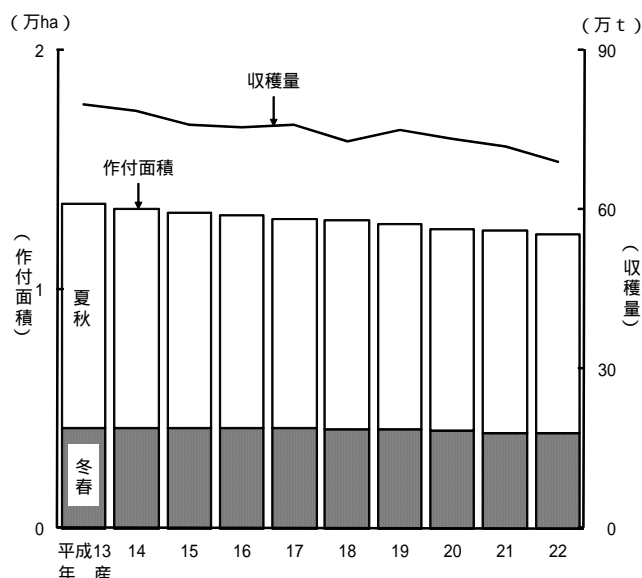


表14 平成22年産トマトの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
トマト	12,300	5,620	690,900	613,500	99	97	96	97	97
冬春	3,970	9,270	368,100	346,300	99	100	99	99	100
夏秋	8,340	3,870	322,700	267,000	99	94	93	94	93

(14) ピーマン

ア 作付面積

作付面積は3,430haで、前年産に比べて30ha（1%）増加した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,000kgで、前年産に比べて5%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は13万7,300tで、前年産に比べて5,400t（4%）減少した。

出荷量は11万8,100tで、前年産に比べて4,200t（3%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春ピーマンの作付面積は766haで、前年産に比べて32ha（4%）増加した。これは、高知県において他野菜からの転換等があったためである。

10a当たり収量は9,190kgで、前年産に比べて5%下回った。これは、2月から3月にかけての日照不足の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は7万400tで、前年産に比べて500t（1%）減少し、出荷量は6万6,300tで、前年産に比べて400t（1%）減少した。

(イ) 夏秋ピーマンの作付面積は2,660haで、前年産並みとなった。

10a当たり収量は2,520kgで、前年産に比べて7%下回った。これは、7月下旬以降の高温の影響等により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は6万6,900tで、前年産に比べて4,900t（7%）減少し、出荷量は5万1,900tで、前年産に比べて3,700t（7%）減少した。

図15 ピーマンの作付面積及び収穫量の推移

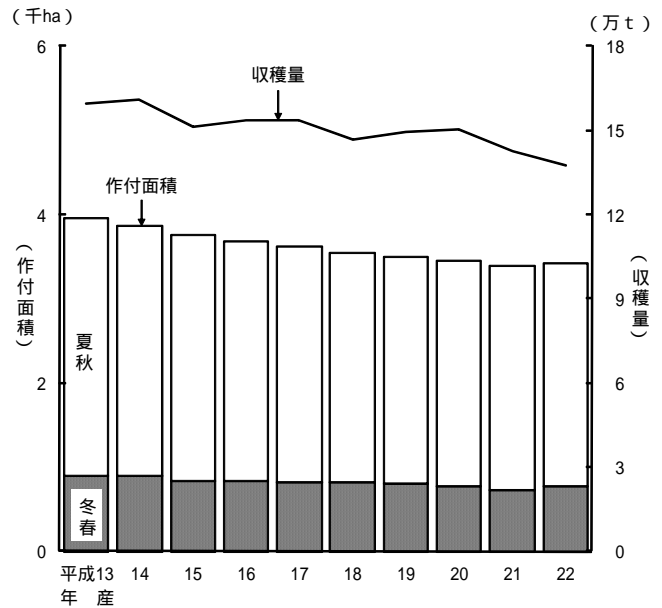


表15 平成22年産ピーマンの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均収量比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
ピーマン	3,430	4,000	137,300	118,100	101	95	96	97	96
冬春	766	9,190	70,400	66,300	104	95	99	99	96
夏秋	2,660	2,520	66,900	51,900	100	93	93	93	96